

## < 悲願成就 >

### 雄冬山<1197M>に登る

H26年4月26日<土>27日<日>

天候：晴れ

雄冬 かつて陸の孤島と呼ばれ、10数年かかって道路が開通した地域で海沿いを縫うように道路が続いている。私は初めて登るが、小山内Lによると悪天候、様々なアクシデント等で実現されず5年越しの挑戦と聞き、その思いを受けてタイトルをつけた。

7:50 幌別発。素晴らしい快晴に見送られ、一路3台の車<12名>は浜益を目指す。どこまで行っても春の日差しは変わらず2日間の山行の天気を約束してくれているようだった。

11:50 浜益着。今夕のメインディッシュの<タコ>を買い求め、近くの海浜公園で昼食を取る。

12:45 浜益発。神社より左折しテ歯に向かう。と、眼前にグサグサの雪道が立ちはだかる。雪道にタイヤは埋まりスリップし、ハンドルを取られそうになりながら何とか1台ずつ進み、テン場に到着。 ヤレヤレ。

14:30 テント設営。雪トイレ製作完了。

男性シフェによる料理開始。メニューは鳥鍋担当<酒井氏>、タコ刺しポテトサラダ担当<西田、相馬氏>、米飯担当<小山内氏> 加えて沖縄帰りの小山内Lの土産、珍味の<海ぶどう>と盛りだくさんの料理を戴きながら楽しく会話が弾む。宴もたけなわ、突然S氏が<俺>の人から、<ボクチャン>少年に変身。その後、第2、第3の<ボクチャン>登場し、笑いの渦の中終宴する。 <19:30>

#### 4月27日

3:00 起床。

4:45 テン場発。スノーシュー組<4名>、スキー組<8名>の編成隊。

5:15 林道を経て山道に入る。

6:00 逢坂。

6:15 モービル禁止区域の赤い標識が5、6本が見える。スノーシュー組とは時折合流しながら登る。

8:40 やっと前方にやや四角ばった感じの山容が見え、<浜益御殿 1039M>に到着。浜益御殿とは、どういう意味でつけたのだろう。どっしり

とした山容を見て自然への畏敬の念を抱いたのだろうか。

シールをつけたまま浜益御殿から滑り降りる。稜線上に出ると日本海からの風が強くなり、強風を受けながら登る。前方にスノーシュー組が山頂に向かってるのが見える。

10:30 頂上直下。直登のためスキーデポ。

11:00 山頂着。山頂からは、日本海、浜益岳、暑寒別岳等増毛山郡が見える。

風が強く、ゆっくりしていられず早々に下山する。

5年越しの目標達成に小山内Lは<これで雄冬を卒業する>と感慨深げな様子だった。

11:30 デポ地点着。

12:15 少し降り雄冬山を見ながら昼食。

12:45 出発。その後シールを3度装着し登り返しを繰り返しながら滑走

。

春の湿り雪は足にズシりと重く、疲労感を覚えながら一気にテン場を目指す。

15:00 テン場着。テント撤収。

15:30 スノーシュー組到着。

12名で雄冬山を登った。

初めての人、数度目の人、5年越しの人とそれぞれの思いで山に向かった。10時間余り、登る、降りる、歩く、滑ると重厚で充実感のある山だった。

浜益の白い山並みはどこまでも広がり、春の日差しの中で心ゆくまで遊ばせてくれた。

## 小山内L、雄冬山完登 <CONGRATULATIONS>

CL: 小山内氏 他11名

H26年5月2日 記録係り 谷 郁子